



平成26年度千葉県知的障害者福祉協会定期総会開催される

千葉あいご
二〇一四年七月号

定期総会議事

日時 平成26年4月22日（火）午後2時～
会場 ホテルグリーンタワー幕張

第1号議案 平成25年度事業報告
第2号議案 平成25年度決算報告

第3号議案 平成26年度事業計画（案）

第4号議案 平成26年度収支予算（案）

第5号議案 役員改選について

新会員事業所紹介
新施設長紹介

○報告

「千葉県社会福祉事業団に対する第3者外部委員による聞き取り調査委員会の検証結果について」

千葉県知的障害者福祉協会 権利擁護委員長 早坂裕実子氏
千葉県知的障害者福祉協会 顧問弁護士 石塚 英一氏

平成26年度千葉県知的障害者福祉協会定期総会の報告

平成26年度千葉県知的障害者福祉協会定期総会が平成26年4月22日ホテルグリーンタワー幕張で開催されました。会議に先立ち里見会長からの挨拶の中では、「千葉県社会福祉事業団の件について、4月から当協会の副会長である田中斎氏が千葉県社会福祉事業団の理事長に就任し、袖ヶ浦福祉センター養育園・更生園の施設長も兼任する形

での新体制が整えられ、役員についても理事として当協会副会長である小林勉氏と地域支援部会長である相馬伸男氏、同じく協会の監事である宮代隆治氏が、また監事には協会顧問である中原強氏が就任されており、協会として協力体制がより手厚くなつた」ことが報告されました。また、職員を派遣された事業所へのお礼と今後も当協会では必要な支援をしていくことが述べられました。

社会福祉法人改革については内部留保・積立金について福祉サービスへの再投資や社会貢献での活用など明確な計画に基づく目的別の積立を行うことが必要であることと、現在、障害福祉サービスにおいて特に就労系事業に民間企業の参入が増加しており、税制や補助金など財政上の条件を同一化にする「イコールフットティング」の考えが導入されてくることが予想され条件がどこで線引きされるのか、経過措置などが設けるのかなどを今後の動向が気になるところであり、社会福祉法人には避けては通れない重要な問題であるとのことです。

総会の総合司会は当協会副会長の高野正敏氏、総会議長は岡田義之氏（中里ワークホーム）の進行により順調に議事の審議がなされ、平成25年度事業報告・決算報告、平成26年度事業計画・収支予算については原案どおり承認されました。役員改選については事務局より役員の選出について提案がなされ、次期会長については、この2年間、

第57号（一〇一四年七月号）
発行日 平成26年（一〇一四）年七月二十日
発行者 里見吉英
編集者 畠山正昭・浅川和之・大橋宣彦
発行所 千葉県知的障害者福祉協会
(本部) 千葉市中央区中央四一四一十 友美ビル三一二B
TEL (043) (334) 5721
HP <http://www.chibachiteki.com/>
(事務局) 船橋市金堀町四九九一 大久保学園内
TEL (047) (457) 1461

目次

- 千葉県知的障害者福祉協会定期総会報告
- 新任職員研修報告
- 支援スタッフ部会コーナー・役員改正
- グループホーム一元化等の制度改正を迎えて
- わが施設の自慢・アピールポイント⑯
- 第41回手つなぎ作品展報告・新事業所紹介
- 千葉知協トピックス・事務局だより

千葉県知的障害者福祉協会広報委員会
畠山 正昭・①・②
地域支援部会長 相馬 伸男・③

会長として先頭に立つて協会活動に取り組まれた現会長の里見吉英氏に引き続きお願いしたいたことが提案されました。副会長についてはこれまで6年間お務めいただいた高野正敏氏より辞任のご意向があり、副会長の選任は現副会長の田中斎氏と小林勉氏に引き続きお願ひすることと現段階では一名の副会長を空席とし、今後幅広い役員の編成を目指して、来年の総会に向け一部会則の見直し等も念頭に進めていくことが、案として提出され承認されました。次に監事、顧問、事務局長の選任では里見会長より監事は中塚博勝氏と宮代隆治氏、顧問は横山紀武氏と中原強氏、事務局长は千日清氏が提案され承認されました。(協会役員等の名簿は下記に掲載しましたのでご参照ください。)

総会議事が滞りなく終了した後、当協会の権利擁護委員長である早坂裕実子氏から「千葉県社会福祉事業団に対する第3者外部委員による聞き取り調査委員会の検証結果について」の報告がなされました。

早坂氏からは、聞き取り調査から見えてきたこととして、①支援体制、倫理綱領や行動指針の周知と虐待防止法等への理解の欠如を感じたこと。②組織力について、役職員の意識の低さ(施設経営の経験がない・行動障害についての知識が少ないなど)また、経験のある中堅職員が少なく、現場職員に組織の一員としての自覚や利用者・ご家族との相互理解、意思疎通ができていなかったこと。③職務・組織・権限等の整備が不明確であり、施設長、幹部職員の現場チェック機能の欠如を感じたこと。④教育の方法が定まっていなかつたこと(外部研修への参加は少なく、また内部研修については更生園の強度行動障害研修も共有されておらず、新人への教育が必要という認識が薄かつたのではないか)⑤利用者の背景や「育てる」といふか(家族に守つてもらえなかつた、つらい思いを

してきた子供たちを守る役割を認識していたのか)⑥施設を暮らしの場と思つていたのか(一般家庭の暮らしと比べてみてはどうかという視点の欠如、行動障害の行動を予測した破損防止の工夫ではなく、破損を防ぐ手立てになつていていたこと)⑦外部との接点、家族とのかかわりが積極的ではなかつたと感じたこと(家族会の開催や面会、帰省についての働きかけ、親の子育てに対する責任を伝えてきただろうか)などが報告されました。また、今回の件は我々に多くの問題を提起していることであり、自分の職場は大丈夫だろうかと振り返ることや自分の足元を見直す良い機会をいたしましたこと、虐待はしてはいけないと唱えるよりも、丁寧な支援を考えようと唱えていくことが大切であることが述べられました。

オブザーバーとして顧問弁護士の石塚英一氏より、「以前、千葉県社会福祉事業団から利用者の困難ケースについて相談を受けたことやどこの事業所でも事故の起ころう可能性はあり、施設においての行動障害の特性に応じた支援技術の共有化やリスクマネジメントに対する取り組みが重要である」とのことでした。

最後に新体制となつた千葉県社会福祉事業団の理事長田中斎氏、アドバンスながら施設長飯田厚子氏より再建に向けての決意が述べられ、総会が締めくくられました。

今回の報告で、県内各事業所それぞれが権利擁護と虐待防止について徹底して取り組んでいかなければならないことや組織として協会が一丸となって啓発活動や再発防止のための研修などに力を入れていくことが重要であると考えます。また、私たちは今一度、原点に返つて障害福祉について深く考えなければならないことを強く感じました。以上、報告いたします。

平成26・27年度 千葉県知的障害者福祉協会役員等名簿

●役員

会長	里見 吉英 (ふる里学舎)
副会長	田中 斎 (千葉県社会福祉事業団)
副会長	小林 勉 (しもふさ学園)
事務局長	千日 清 (大久保学園)
監事	中塚 博勝 (香取ネットワーク)
監事	宮代 隆治 (カメリアハウス)
顧問	横山 紀武 (豊四季光風園)
顧問	中原 強 (ふなばし工房)

●部会長

生産活動就労支援部会	佐藤 直人 (いんば学舎オソロク倶楽部)
児童発達支援部会	久保寺 玲 (八幡学園)
障害者支援施設部会	佐久間 智 (しおさいホーム)
日中活動支援部会	山形 朝雄 (かしの木園)
相談支援部会	三木 康雄 (十倉厚生園)
地域支援部会	相馬 伸男 (くすのき苑)
支援スタッフ部会	鶴岡 秀隆 (ピア宮敷)

●委員長

スポーツ文化委員会	藤崎 明 (ひかり学園)
研修委員会	小林 勉 (しもふさ学園)
広報委員会	島山 正昭 (中里の家)
調査研究委員会	中塚 博勝 (香取ネットワーク)
権利擁護委員会	早坂裕実子 (まつぼっくり)
福利厚生委員会	中村 敏久 (上総喜望の郷)
政策委員会	樋口 敦夫 (上総ゆうゆうの郷)

グループホーム一元化等の制度改正を迎えて



6月30日 管理者対象研修会風景

本年4月1日

について引き続き協議を続けていくことにしています。

からグループホームが一元化され、幾つかの制度改正が行われました。

今回の制度改正、あるいは建築基準法や消防法関連の改正は、私たち事業者にとっては大変大きな影響があります。

全国的に見ると、福島県を筆頭に、その後、鳥取県や愛知県が「200m²未満の障害者グループホームに供する家屋については、一定条件を満たす場合には一般住宅として見なす」との解釈を示していますが、一方で東京都練馬区は「バリアフリー新法等を適用し、二階建てホームに対するエレベーター設置を義務付ける」等の指導があります。

建築基準法や消防法関連では、「一定要件を満たすホーム以外、障害者グループホーム全てがスプリンクラーの設置義務対象となる」とのことですが、既に「賃貸ホームに新たに設置したスプリンクラー配管を入居者が破損させて水浸しにし、家主への損害補償の問題が生じた」との事例、「家主の同意が得られず、経過期間である平成30年までに退去を余儀なくされる例」が寄せられるなど、同様な事例は増加することが予想されます。

決して、安くはないスプリンクラー整備費への負担拡大を予算要望として取り上げる他、民間賃貸家屋を用いた開設の難しさに対応し、自前での建設を容易にするための建設費補助枠の拡大を更に要望していくことにしています。

千葉県では、所在するホームの半数が賃貸家屋を使用しており、地域支援部会は「200m²問題」に

さで、今回の制度改正でもっとも関心の寄せられていることが二つあり、夜間支援体制の「夜間勤務の配置時間はどうなるか」との疑問や、「医療連携体制加算Vの看護師は正看護師でなければならない理由は?」等の疑問が寄せられています。

また、宿直体制加算の大幅な引き下げは運営に極めて大きな影響を与えるだけでなく、明らかに「宿直体制が夜勤体制よりも多い実態」からすると、報酬上の理由から「夜勤体制を無理に導入する懸念」がある一方、「宿直に対する労基法上の問題も指摘されている」等、地域支援における夜間の支援体制の整理はもとより議論を重ねなければならない状況にあります。

また、サテライトは単身生活を望む方の大きな朗報ではありますが、3年との期限(継続措置はあります)以降の設計図は果たして描くことが出来るだろうか。「十分に単身生活の場ではないか」との指摘はとても説得力があります。

建築基準法や消防法関連では、「一定要件を満たすホーム以外、障害者グループホーム全てがスプリンクラーの設置義務対象となる」とのことですが、既に「賃貸ホームに新たに設置したスプリンクラー配管を入居者が破損させて水浸しにし、家主への損害補償の問題が生じた」との事例、「家主の同意が得られず、経過期間である平成30年までに退去を余儀なくされる例」が寄せられるなど、同様な事例は増加することが予想されます。

決して、安くはないスプリンクラー整備費への負担拡大を予算要望として取り上げる他、民間賃貸家屋を用いた開設の難しさに対応し、自前での建設を容易にするための建設費補助枠の拡大を更に要望していくことにしています。

地域支援部会では、事業者、入居者の直面する諸問題を県への予算要望や日本知的障害者福祉協会への要望として各関係団体、各地区会レベルでの取り組みを強めていきますので、皆様にはますますのご支援をよろしくお願いいたします。

大事な視点があります。

一つは、「入居者の加齢・高齢化にどのように対応するか」です。

2年前の調査でも、GH等の入居者の平均年齢は、県内障害者支援施設入居者のそれと大差ないことわきました。これは全国的にも同様な事態です。

本年度の制度改正で「医療連携体制加算V」が新たに加わりましたが、各事業所での健康管理等の態勢整備は大きな課題となりつつあります。「何故、准看護師配置では駄目か」の納得のいく説明はなく、部会として改めてその実態を把握し、将来の体制整備に向けた一助とするつもりです。

二つは、「障害者支援施設への入所希望は増加こそれ減っていない」との現実に対し、「GHの開設はこの事態の解決への大きな方法である」ということです。

25年度の県内のGH入居者数は、千葉県障害者計画の26年度末目標値3350名を達成する勢いです。厚労省は、来年度の報酬改定にかかる検討チームを立ち上げることの方針説明に際し、2017年度までの目標値として「2013年度末時点での入所施設者数の12%以上を地域に移行、入所者数を4%以上削減」との基本方針を示しました。

グループホームの開設が急がれる状況が更に強まりますが、「障害者支援施設の機能や期待は少しも色褪せることはない」との主張に組みしつつ、地域移行への道筋は、既に既存の賃貸でのホーム開設が難しくなると共に、法人の新規建設にあつても、「都市部では土地確保の難しさ、職員確保の難しさ、近隣住民との折り合いの難しさ」等、様々な局面が顕著となってきます。

地域支援部会では、事業者、入居者の直面する諸問題を県への予算要望や日本知的障害者福祉協会への要望として各関係団体、各地区会レベルでの取り組みを強めていきますので、皆様にはますますのご支援をよろしくお願いいたします。

新任職員研修会に参加して

6月17日(火)18日(水)に、千葉県知的障害者福祉協会主催の「平成26年度新任職員研修会」がサンライズ九十九里にて開催されました。新任職員総勢140名が2日間に渡り研修を行い、充実した時間を過ごすことが出来ました。

研修の始まりは、緊張でした。研修会場で参加者は22のグループに分けられ、グループごとに決められた席に着きます。自己紹介が終わると、早速講義が始まります。講義を訊く参加者の表情は真剣で、研修でしつかり学び職場に戻りたいという思いが伝わってきました。

講演は、「自閉症特性の理解と行動障害への支援」「福祉職員としての接遇を学ぶ」など、2日間で5つの講義を受けました。中でも「先輩職員から学ぶ」は、同じ支援員の先輩からの講義で興味深く話を訊くことができ印象的に残りました。

1日目の講義が終わると、宴会場で懇親会が催されました。懇親会では、会場での緊張とは打って変わつて和やかな雰囲気の中、新任職員同士の交流がありました。

最後は各グループで、会場での緊張とは打って変わつて和やかな雰囲気の中、新任職員同士の交流がありました。皆、ビールを片手にあつちこつちにお酌をして廻り、仕事の事からプライベートな事まで色々と語らい、親交を深めました。

最後は各グル



新任職員研修を終えて

社会福祉法人ききょう会 吉沢学園 柴山周



6月17、18日サンライズ九十九里で行われた新任研修に参加致しました。

一日目の午前は「自閉症特性の理解と行動障害への支援」というテーマで、自閉症の方の特性や行動障害への支援の方法を学びました。午後は2つ講演があり、初めに「福祉職員としての接遇を学ぶ」という題で、丁寧語の使い方や事例を用いて様々な場面における対応の仕方にについての説明がありました。次の「障害福祉の基礎知識を学ぶ」では、障害福祉を学ぶ上で基本となる部分についての分かりやすい説明がありました。

二日目は千葉県知的障害者福祉協会・組織及び活動について、現在に至るまでの経緯を中心とするお話をあり、その後「先輩職員から学ぶ」ということで、主に先輩職員の新任職員時代の体験や失敗談を踏まえた講演がありました。そして最後はグループ討議。「どんな支援者になりたいか、あなたの目標支援者像」を話し合いの時間は、3時間とたっぷり設けられ、どのような支援員を目指すべきか、深く意見を交わすことが出来ました。

最後に、このような素晴らしい研修に参加出来たことに感謝致します。講師の方々、大会スタッフの方々、本当に有難うございました。これから仕事で、教えて頂いたことは必ず実践して、皆で話し合った目標に沿った取り組みをして、恩返しをしたいと思います。

この二日間の研修はどれも重要なことでした。印象深かったのですが、特にそのように感じた内容は「自閉症特性の理解と行動障害への支援」の講演でした。私は就労継続支援B型の施設で利用者の方と作業をしているのですが、例えば草取りをしている時に「根っこについている土を落として」という指示をした時に口だけで言つてしまい、かつどのように土を落とせばよいのかを説明しながら土を落としたために、あちこちに土を散らせたり、覚情報や抽象的情報に偏った説明を今までを振り返ると時々していたと感じています。これは反省すべき点であり、今後の改善すべき点であり、これは自閉症の方のみならず他の障害をもつた利用者に対しても同じことだと思います。口で説明するよりは実際にやってみせたり、指さしなどを使った説明の方が分かりやすいです。具体的な方が相手にも伝わりやすいと思います。経験や専門的知識の他に自分の中にある『気配り』が重要だということを感じました。

この二日間の研修は緊張している暇もないくらい内容が濃いものであり、その内容全てが支援員として必要なことであると改めて思います。

「この人なら安心して任せられる」と信頼される支援員となるために今回の研修で学んだことを活かし、今後も経験を積んでいきたいと思います。

社会福祉法人つくばね会 おおはん 海老原 真帆

支援スタッフ部会コーナー／役員改選

●●部会長再任にあたり●●

ピア宮敷 鶴岡秀隆

先日開催いたしました、支援スタッフ部会第一回代表者会議にて、部会長に再任させていただくことになりました、社会福祉法人土穂会ピア宮敷の鶴岡と申します。今回で三期目、就任から五年目となりました。

五年も務めさせていただいているのなら、何かしら進歩なり成長なりがあってもよいのですが、自分ではそのようなものは感じられず、皆さまにはご迷惑をおかけしてばかりですが、この二年間、今一度よろしくお願ひ申し上げます。

紙面でのご挨拶の度に申し上げておりますが、支援スタッフ部会の主たる目的の一つが職員間交流です。各施

設より派遣の代表者の方は毎年交代される方も多く、初めて他の施設の職員が集まる場所に出られる方も多いと思います。今後開催される部会の全体研修や各ブロックの活動を通して、多くの仲間と接することで、様々な意見や物事の見方に触れる機会となるよう努めて参ります。

多様な意見に触れるためには、周囲からの発言を待つだけでなく、自らも意見を発し、それに対する周囲からの意見を聞くことで、活発な議論を喚起する必要があります。部会の研修ではグループ討議をよく開催いたしますが、発言が控えめな方も多く見受けられます。各施設の代表者の皆様におかれましては、各種会合において、積極的な意見交換をお願い申し上げます。そうした経験の積み重ねが、近い将来きっと皆様のお役に立つこと信じております。

●●早いもので3期目です●●

ひかり学園アネックス 宇井菜那

今期も副部会長職を仰せつかりました。進歩のない私が再就任のご挨拶とはたいへん僭越ではあります、一言述べよと言う厳しいご指示をいただきましたので、紙面をお借りさせていただきます。

さて、まだまだ未熟者ではありますが、千葉県知的障害者福祉協会支援スタッフ部会を更に盛り立てるべく精進して参りますので、御指導御鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます…と書いてしまえば、これで終わってしまいますので、これまでの支援スタッフ部会とは何ぞやという部分にも多少触れたいと思います。

元をただせば私が生まれる前（…嘘です。二十数年前と聞いております…）に従事者部会という名称で始まつ

たのがこの部会で、現場の最前線である一般職員の職員間交流及び支援技術の向上を目的に活動してきたそうです。

現在もその崇高い主旨は変わらず、職員が利用者支援技術の日々の向上に必要なものは何か、そのためにはどのように利用者と向かい合えばよいのか、何を学べばよいのか、日々の悩みは尽きないけれど共有できるものを探したい等々、支援者である我々が持つ迷いや疑問が少しでも解ける一助となればと、部会活動を企画して参りました。今後の支援スタッフ部会も、参加していただく皆様が面白く、かつ普段の業務では忙しくてじっくり考える機会が失われがちなときに自身を振り返る場として活用して頂きたく様々な企画をこれまで以上に実践したいと考えております。皆様の暖かくも厳しいご意見をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

●●副部会長就任を受けて●●

小金わかば苑 小川拓臣

「福祉」は、そのやさしい言葉の響きやイメージとは違い、やるべきことや追求すべきことに際限がなく、収入も良いわけでもない厳しい世界です。そして、利用者の人生を左右する存在と言っても過言ではない支援者の責任は重いものです。また、高いスキルやノウハウが求められる支援者には、その土台となるべきモチベーションが必要不可欠だと言えます。しかし、そのモチベーションの維持や向上が難しくなる時もあると思います。

そのような時こそ大きな力となるのが、人とのつながりではないでしょうか。職員間の交流が第一義である支援スタッフ部会（以下「部会」）は、施設を超えて悩み

を共有し、より良い支援を共に模索できる場です。参加する本人の気持ちや行動一つで、様々な事を進展できる可能性を秘めていると思います。

自分も初めから高いモチベーションで部会に参加していたわけではなく、先輩方に感化され様々な経験をする中で育てていただきました。だからこそ、今度は自分が皆さんを後押しする側になり、部会がさらにプラスの影響を与え、楽しく学べる場となるようにしたいと考えます。

先に「福祉は厳しい世界」と述べましたが、一方で利用者と向き合う中で自分自身とも向き合い、人として成長し、喜びを共有していくこの仕事は「すばらしき世界」だとと言えます。その世界を支える仲間として、共に高め合えるようにこれからも誠心誠意努めていきますのでよろしくお願ひいたします。

支援スタッフから見た! → わが施設の自慢・アピールポイント⑯

平成20年度から15回にわたり47の“ブチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今年最後は2つの“ブチ自慢”です!

香取・海匝B・ 笹川なずな工房

社会福祉法人 さざんか会

笹川なずな工房

10th Anniversary

今年で開所10周年!

「働くこと生きること」

平成14年に笹川なずな工房は知的障害者の自立支援を目的として設立しました。多機能型施設（就労移行事業、就労継続B型事業）として今年度お陰様で開所12周年を迎えることができました。土と緑と美味しい水、豊かな自然に恵まれたこの東庄の地で「働くこと、生きること」を基本理念に地域に密着した製品を作ろうと地元の果実を使ったジャムや、素材にこだわった美味しい手作りパンの製造・販売を地域の皆さんのお力添えを頂きながら日々行っています。



「はーとふるメッセ大賞受賞!」

障害者の働く姿とその成果を広く社会にアピールし、障害のある人もない人も共に生きる地域社会の実現を目指し開催されている「はーとふるメッセ」で県内の障害者福祉施設から出品された食品や手芸品などの中で、2010年度には製品部門で出品した当施設のジャム3種のギフトセット（苺・ブルーベリー・いちじく）が大賞を受賞することができました。お客様に喜んで頂ける商品を利用者さんと力を合わせて地道にジャム、パン等の製造を日々行っています。お近くにお越しの際には是非工房までお立ち寄り下さい。

支援員 吉田 太郎

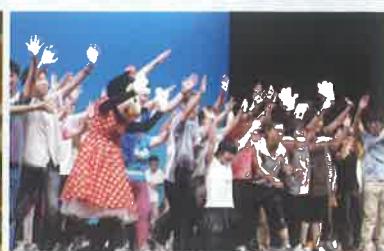
東葛北B・あすなろ職業指導所

活動の中心は働くこと

野田市立あすなろ職業指導所は昭和49年5月に定員19名の小規模作業所として野田市が設置した施設で、社会福祉法人はーとふるが平成21年4月より指定管理者として運営を始め、指定管理者制度導入と同時に新事業体系に移行して、就労継続支援B型（定員20名）生活介護（定員20名）の事業を展開しています。

作業は製パン（パンの他にクッキーやパウンドケーキ等）、織物（さをり織りのマフラー・やポーチ等）、下請（各種箱折り、型折り、クローゼットキャスターの組み立て等）の3種で、活動の中心は働くことにあります。体操や散歩を取り入れ生活習慣病の予防や改善にも取り組んでいます。パンや織物製品は好評で市役所などの喫茶店で販売しております。

あすなろ職業指導所 永田 洋



おりもの工房

サンスマイル

第41回 手をつなぐ作品展報告

中部地区

幹事施設：中野学園 青木 大輔

社会福祉法人青葉会
WITH US（柏市）

新事業所紹介



4月18日（金）から21日（月）までの4日間、イオンリテールゆみーる鎌取ショッピングセンター催事場にて第41回中部地区「手をつなぐ作品展」が開催されました。今年は会場の変更に伴い開催日程も変更となり、集客数や売り上げはどう変わるのが不安を感じながらのスタートとなりましたが、会場がお客様の目に留まりやすい場所であったこともあり、覗いていかれる方がたくさんいらっしゃいました。4日間を通して客足が途絶えることは少なく、終わってみれば、昨年より35万円増となる99万円を売り上げることが出来ました。

最終日に向けて作品が少なくなるという大きな課題を始め、次回に向けて改善しなければならない点がありました。「別の作品も見てみたいが知りたい」というお客様もありました。

作品展を開催したことで地域の方との新しい繋がりを作ることが出来て、大変貴重な機会であると改めて感じました。

最後に、作品展開催にあたり全面的にご協力頂きましたゆみーる鎌取ショッピングセンター様はじめ、各施設関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



(完成した6棟と中央のプロムナード道路)

社会福祉法人青葉会は、千葉県柏市において重度行動障害にも対応した自閉症の人の地域生活支援を推進するため、平成26年4月旧十余二学園及び柏育成園跡地（千葉県柏市十余二字南前山175番66）に総合的な福祉サービス事業所「WITH US」を開業致しました。全館、適材適所にさまである木材を使用した木造建築となっています。事業内容は、夜間支援としてグループホーム定員29名で全5棟、天井が高い開放感と生理的な心

地よさ、防音と生活展開に配慮した設計、利用者のプライバシーを保障した15m²のゆとりある空間の居室になっています。職員は、各棟につき3名配置し担当制をとっています。また、別棟に単独型短期入所を設置しています。定員10名で緊急一時的な利用も兼ねています。日中支援としては、生活介護20名、就労継続B型20名、就労移行15名の定員で、就労移行では、事業所内のパソコンの各種資格・簿記・漢字検定など取得可能としています。

加えて、WITH USでは相談室を設置し、医療との連携のもとで地域にお住まいのご本人や家族のための相談支援を行っています。社会福祉法人青葉会は、WITH US開業と同時にNPO法人自閉症サポートセンターの事業を統合し、法人として成年後見制度への取組み、災害時の障害者や家族の避難所としての機能、全国的な事業連携など、自閉症や知的障害のある人が、家族の暮らす街で豊かなシェア・ライフを過ごすため積極的に取り組んで参ります。



(WITH US入口、奥管理棟、右作業棟)

千葉知協トピックス

千葉県障害者スポーツ大会開催される

平成26年度千葉県障害者スポーツ大会が5月25日、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場での総合開会式を皮切りに知的障害関係では、陸上、水泳、卓球、フットボール、バスケットボール、ボウリングの7競技によって開催された。本大会は、11月に開催される「全国障害者スポーツ大会」の千葉県代表選手選考も兼ねており、各競技とも県代表を目指して熱い戦いが繰り広げられ、知的障害関係では、以下のような大会新記録が出た。



「長崎がんばらんば大会」千葉県代表選手決定

11月1日から3日までの3日間で開催される第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」の千葉県代表派遣選手が発表された。千葉県の知的障害関係選手枠は28名と厳しい選考となつたが、最強の選手団が選考され今年も千葉県選手団の大きな活躍が期待される。知的障害関係の派遣選手は以下のとおり。

陸上男子…中村生・倉本翼・飯田健也（以上、流山高等学校）、上出翔太・中島朗（以上、流山高等学校）、上出翔太・中島朗（以上、流山高等学校）、久保田剛（富里福葉苑）、岸田悠弥（印旛特支さくら分校）、安西伸浩（安房特支）

陸上女子…鈴木裕貴（柏市）、土岐章子・作田晴江（以上、支さくら分校）、浪川佳奈（印旛特支）、渡辺啓仁（野田市）、山本京子（ひかり学園）、中島啓智（中山学園高校）

水泳男子…男子四百m少年…倉本翼（流山高等学校）、男子五百m少年…安西伸浩（安房特支学校）、女子五百m青年…鈴木裕貴（柏市）、女子八百m少年…甲斐ひなた（逆井中・柏）、女子八百m壮年…山本京子（ひかり学園）、

水泳女子…鈴木千絵子（市川市）

水泳

女子ジャベリックスロー・壮年…作田晴江（富里福葉苑）、男女混合四百mリレー…流山高等学園

卓球男子…木川田優大・竹守彪（以上、TOMAX）
卓球女子…森木実可（袖ヶ浦市）
ボウリング男子…重田洋平（木更津市）、柄澤賢司（NPOリーブ）
フライングディスク男子…西城師（富里福葉苑）、朝日美穂（みづき会）
田中秀治（ふるさと学舎）、山本和彦（のさか学園）
ボウリング女子…赤地美和子（富里福葉苑）、成田市のぞみの園 千葉健彦



事務局便り

事務局長 千日 清

新役員により、26年度が開始されました。社会福祉法人の役割と使命が問われている今、地に足をつけた地道な支援を大きな武器として、信頼をコツコツと積み上げていきたい。

編集後記

くすのき苑

大橋 宣彦

今号から編集を担当することになりました。親しみやすく読みやすい紙面を心がけていきたいと思います。よろしくおねがいします。